



土岐高山城跡の森 利活用計画

(平成29年度～31年度)



市街地に隣接した土岐高山城跡の森（土岐高山城跡上空から撮影）



子どもたちを育む森づくり（椎茸菌打ち体験）



歴史的観光資源を活かした森づくり（高山城跡）



森の中を周回する遊歩道（全長2.1km）



センターハウス

平成29年3月

土岐津町まちづくり協議会

も く じ

第 1 章	計画策定の趣旨	1
第 2 章	地域を取り巻く環境の変化	4
1.	今までのまちづくりの経緯	4
2.	迫りくる急激な人口減少	4
3.	今後のまちづくりの目標	5
第 3 章	土岐高山城跡の森 利活用計画	7
1.	魅力的な森づくり（地域の魅力向上）	7
2.	歴史的観光資源を活かした森づくり（地域の活性化）	10
3.	子どもたちを育む森づくり（ふるさと教育の推進）	11
4.	持続可能な森づくり（次世代リーダーの育成）	12
5.	協働の森づくり（みんなで自然を守ろう）	13
第 4 章	土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議の記録	14
1.	第 1 回 土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議	15
	（第 1 回ワークショップ）	
2.	第 2 回 土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議	21
	（第 2 回ワークショップ）	
資 料	補助金制度について	26



土岐高山城跡の森 利活用計画

平成 2 9 年 3 月

第 1 章 計画策定の趣旨

土岐高山城跡の森の概要

岐阜県は、平成 2 4 年 3 月に策定した「第二期 岐阜県森林づくり基本計画」に基づき、特に人の暮らしが森林から離れ荒廃が進む里山林において、生物多様性の保全など環境への配慮と森林資源の活用による新たな里山再生手法のモデルを確立するために、県内で 5 か所の環境保全モデル林を整備しました。

土岐高山城跡の森はその 3 番目のモデル林として採択され、平成 2 7 年から岐阜県により整備事業（10. 8ha）が実施され、平成 2 8 年 7 月 1 7 日に土地所有者の土岐市へ移管されました。

この森は次の 2 つのコンセプトのもとに整備されています。

歴史的観光資源を活かした森づくり

土岐市中心部は、平安時代より美濃源氏（土岐氏）の発祥の地として栄え、戦国時代には織田と武田の勢力争いの中で多くの合戦が繰り広げられた所です。土岐高山城跡の森の中には「高山城跡」、「穴弘法」、周囲には「下街道高山宿」など多くの歴史的資源が残っています。

これらの資源を活かして観光エリアとしての魅力を高め、健康増進、癒し空間の提供を目指す森づくりを推進します。

子どもたちを育む森づくり

高山城跡周辺の山林は、かつて陶磁器を焼くための燃料や毎日使う薪の採取場として活用され、子どもたちは里山で遊ぶ中で、森の大切さを学び、感謝の気持ち、故郷への愛情を育んできました。しかし現在では産業や生活スタイルの変化に伴い人々と森との関わりが希薄になっています。

子どもたちが森の中で学び自然に親しむことができる里山林を再整備し、将来に渡って故郷を支える若い人材の育成を推進します。

主な設備概要

センターハウス	木造平屋建て	14. 5m×5. 4m	79. 4㎡
バイオトイレ	2 基		
展望休憩所	3. 0m×3. 0m	9. 00㎡	
作業道 総延長	407. 3m	幅員 3. 6m	
遊歩道 総延長	486. 1m	幅員 1. 0～1. 5m	（この他に既存遊歩道 約1, 200m）
案内看板	3 箇所	（完成後に案内道標 2 5 箇所 設置しました）	

利活用計画策定会議について

土岐高山城跡の森整備事業が完了し、平成28年7月に岐阜県から土岐市に移管されたことに伴い、森の利活用計画の策定が急務の地域課題となっていました。

この森の維持管理にあたる「プレーヤー」の公募に応じた高山城高山宿史跡保存会、土岐里山の会、高山区自治会、土岐津町青少年育成会の4団体、その母体である土岐津町まちづくり協議会、その他の民間団体、市民、学生、学識経験者、岐阜県ならびに土岐市の関係職員の皆さんが一堂に会し、「協働の森づくり」の推進を目指して「土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議」を開催しました。

この報告書は平成29年1月15日と2月12日に開催された同会議において協議された平成29年度～31年度にかけての利活用計画です。

今後の進め方

今後はこの利活用計画に沿い次の5つのワーキング・グループを立ち上げ、行政の支援を仰ぎながら、多くの団体、市民の力で「協働の森づくり」を進めます。

- | | | |
|------------|---|--------------------------|
| ワーキング・グループ | 1 | 魅力的な森づくり（地域の魅力向上） |
| ワーキング・グループ | 2 | 歴史的観光資源を活かした森づくり（地域の活性化） |
| ワーキング・グループ | 3 | 子どもたちを育む森づくり（ふるさと教育の推進） |
| ワーキング・グループ | 4 | 持続可能な森づくり（次世代リーダーの育成） |
| ワーキング・グループ | 5 | 協働の森づくり（みんなで自然を守ろう） |



カブトムシ観察会の様子

土岐高山城跡の森 案内図

北 4 100m



第2章 地域を取り巻く環境の変化

図1 迫り来る 超少子高齢化社会

このグラフは若者の都会への流出を考慮していない

地方の子供の減少はさらに大きくなる

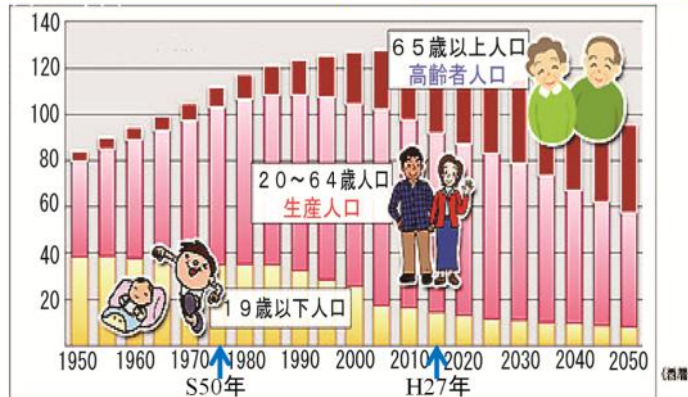


図2 日本の総人口の今後の推移

日本の総人口は2004年をピークに減少し今後50年間で半減し100年後には1/3になる (国土交通省国土計画局)

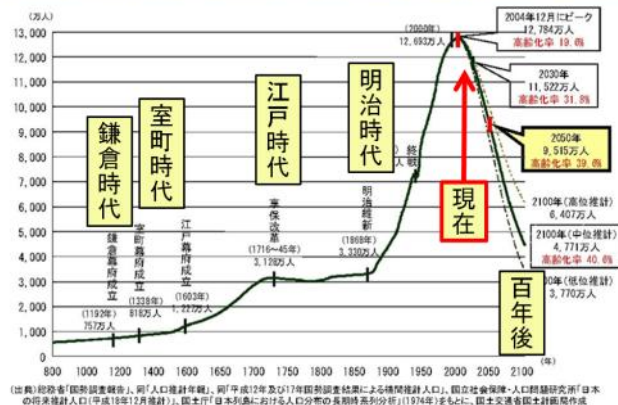
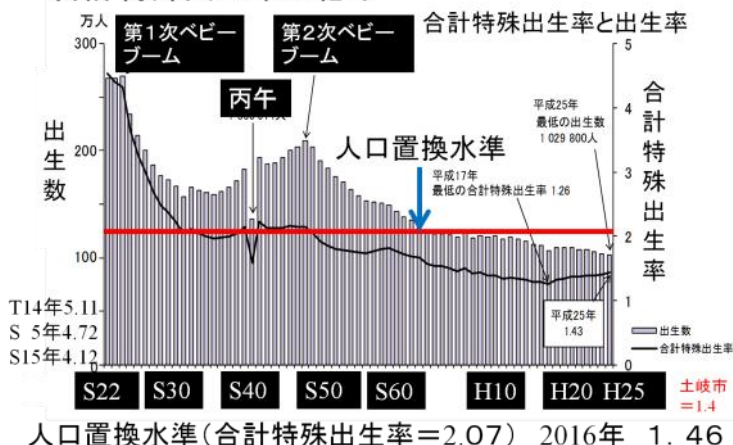


図3 人口減少の原因(出生率)

合計特殊出生率の低下



1. 今までのまちづくりの経緯

土岐津町高山地区は平成23年4月に高山城高山宿史跡保存会が結成されて以来、歴史と文化を活かしたまちづくりに取り組んできました。

平成23～25年度にかけて、土岐市固有の歴史資源を活用し、高山区民会館の建設、高山城跡や高山宿の景観整備、高山城戦国合戦まつりの開催などを軸とした活動を行いました。

平成26～28年度にかけては人と人の交わりをテーマに、高山城戦国武将隊の結成、交流施設「戦国茶屋」の運営、郷土料理研究、絵手紙教室、郷土の偉人丸茂むね回顧展などの運営を行いました。平成28年7月には環境保全モデル林「土岐高山城跡の森」がオープンし自然という新たなテーマが出現、高山城高山宿史跡保存会をはじめ土岐里山の会、高山区自治会、土岐津町青少年育成会など多くの団体が連携し「土岐津町まちづくり協議会」が発足しました。

このような背景の下、土岐高山城跡の森の利活用計画策定を中心に、平成29～31年度にかけての新たなまちづくり計画を策定する時期に至りました。

2. 迫りくる急激な人口減少

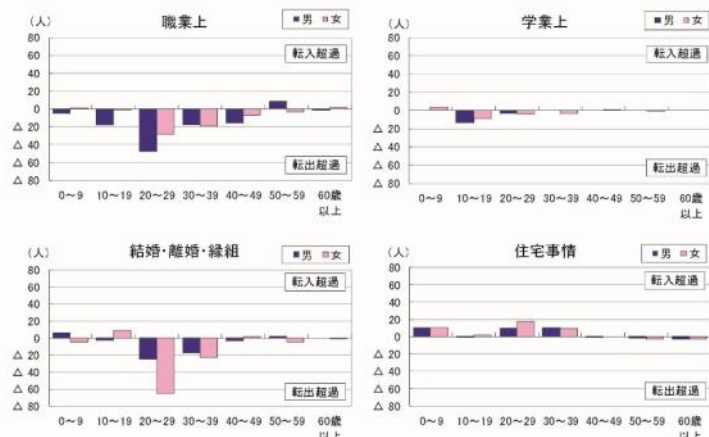
総務省統計局は2016年(平成28年)2月に平成27年国勢調査の人口速報集計を、10月に基本集計を発表しました。1920年(大正9年)の国勢調査開始以来、初めての人口減少となり、今後地方を中心に急激に人口が減少することが明らかになりました。図1と図2は総務省と国土交通省が公表している日本の将来人口予測をもとに作成した図です。

一方、土岐市の人口は、全国よりも早く人口減少の局面に入り1999年(平成11年)には出生数が死亡数を下回るという、自然減少の状態に転じています。図3は人口減少の原因の一つである合計特殊出生率の変化を示したものです。

図 4

**職業上、結婚等を理由として20代・30代を中心に転出超過。
一方、住宅事情を理由として30代を中心に転入超過がみられる**

主な移動理由でみた世代別日本人の社会動態(土岐市 H27)



出典:岐阜県「岐阜県人口動態統計調査結果」(平成27年) ※社会動態=転入者数-転出者数

現在の土岐市の合計特殊出生率は1.4ほどであり、人口が減少しないとされる人口置換水準2.07を大きく下回っています。

土岐市では現在一年間に500人ほどの人口が減少していますが、出生率低下による自然減少に加え、進学、就職、結婚を機に転出する若者が人口減少のおよそ半分を占め(図4)、出生率の低迷、若者の流出がこのまま続くと50年後には土岐市の人口は半減すると予測しているデータもあります。(図5)

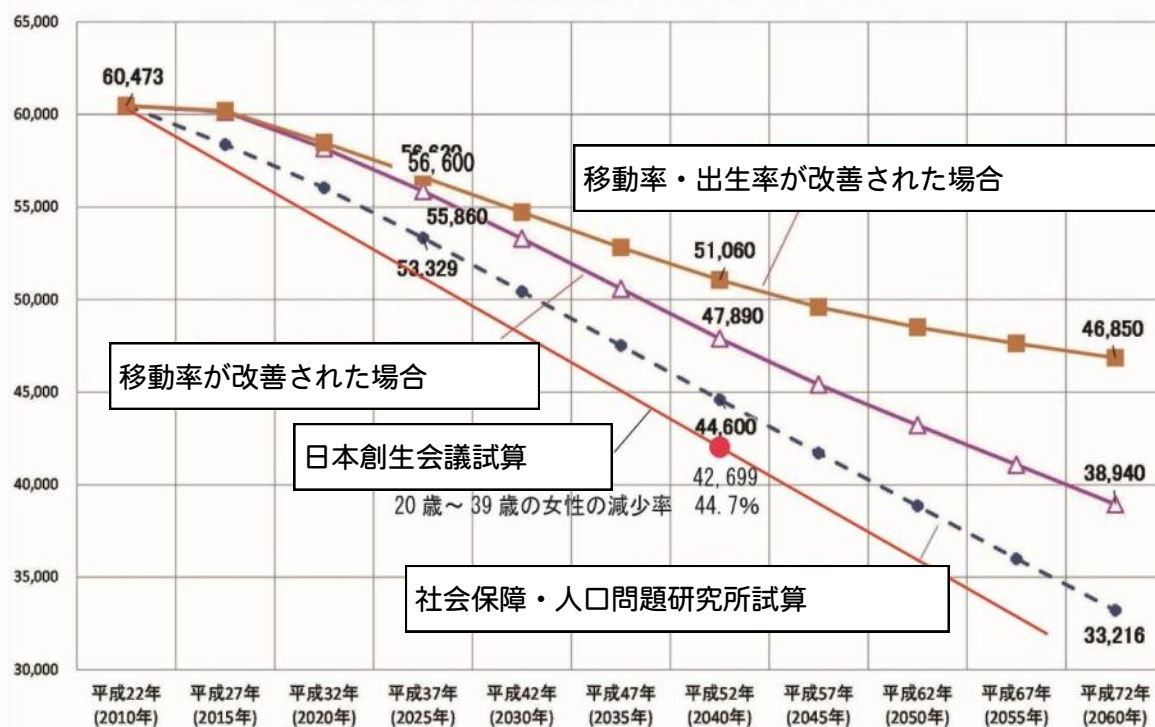
3. 今後のまちづくりの目標

この深刻な事態から脱却するためには、子どもたちの郷土への愛着心を醸成して若者の流出を留め、子育てをしやすい環境を創りだし、UターンあるいはJターン、Iターンによって若者が戻ってくるような地域づくりを目指していくことが必要です。

今後は、行政と協働しながら私たちの手で地域の活力を向上させ、「若者が住みたくなる魅力あふれるまちづくり」を推進することを目指します。

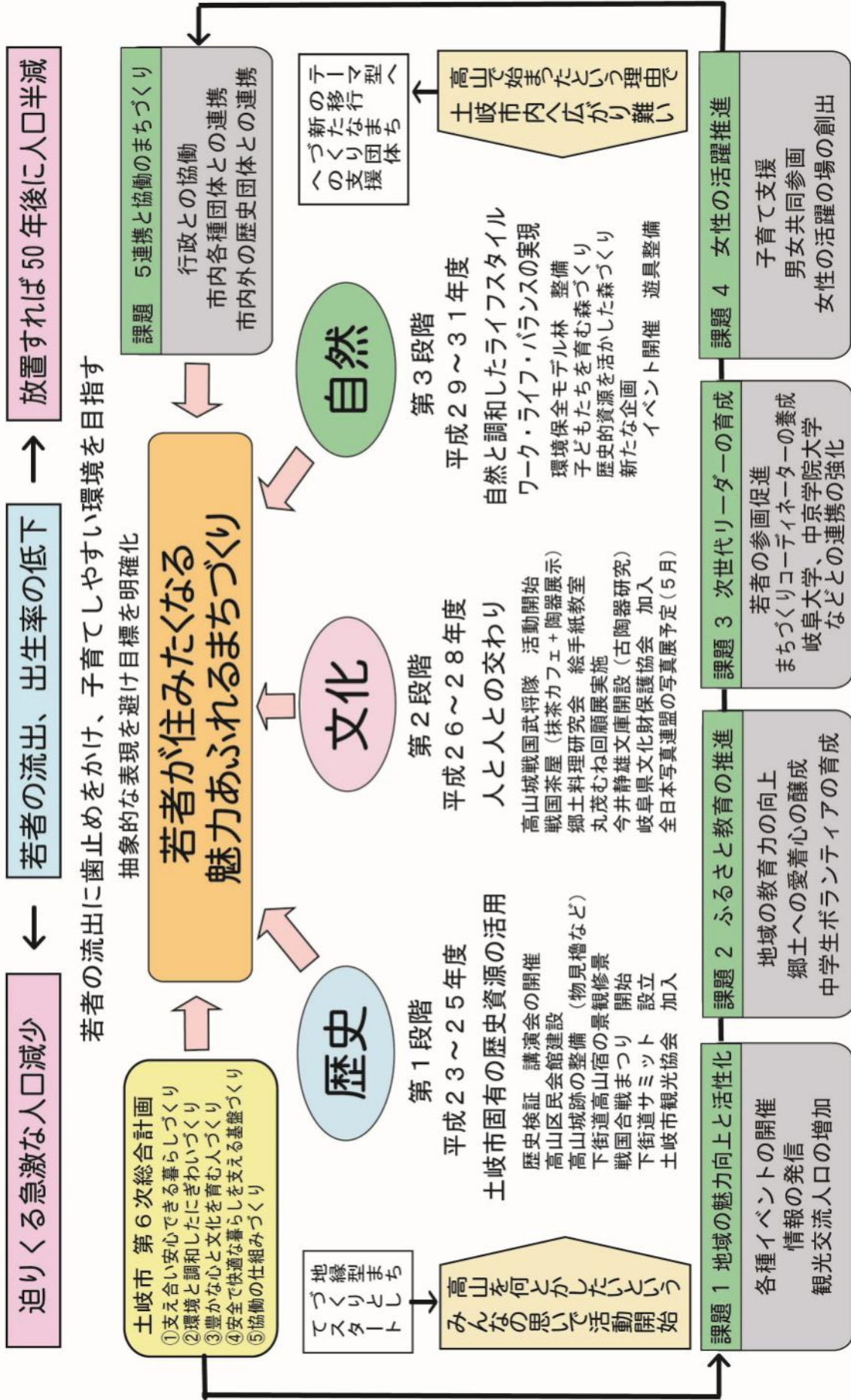
図 5

土岐市人口の長期的見通し(2010年から2060年)



出典 土岐市人口ビジョン 日本創生会議試算 2014.5

高山城高山宿史跡保存会 / 土岐津町まちづくり協議会 第3次 まちづくり計画基本構想 (平成29年～31年)



第3章 高山城跡の森 利活用計画

「若者が住みたくなる魅力あふれるまちづくり」を目指して、次の5つのテーマのもとに土岐高山城跡の森の利活用計画を策定しました。自然と調和したライフスタイルとワーク・ライフ・バランスを実現させながら、協働の森づくりに取り組みます。

テーマ1	魅力的な森づくり（地域の魅力向上）
テーマ2	歴史的観光資源を活かした森づくり（地域の活性化）
テーマ3	子どもたちを育む森づくり（ふるさと教育の推進）
テーマ4	持続可能な森づくり（次世代リーダーの育成）
テーマ5	協働の森づくり（みんなで自然を守ろう）

1. 魅力的な森づくり（地域の魅力向上）

地域の魅力向上はみんなの願いです。土岐高山城跡の森の整備を進め、地域の自然環境を保全し、子どもたちが自慢に思えるような「ふるさとの森」を創出します。

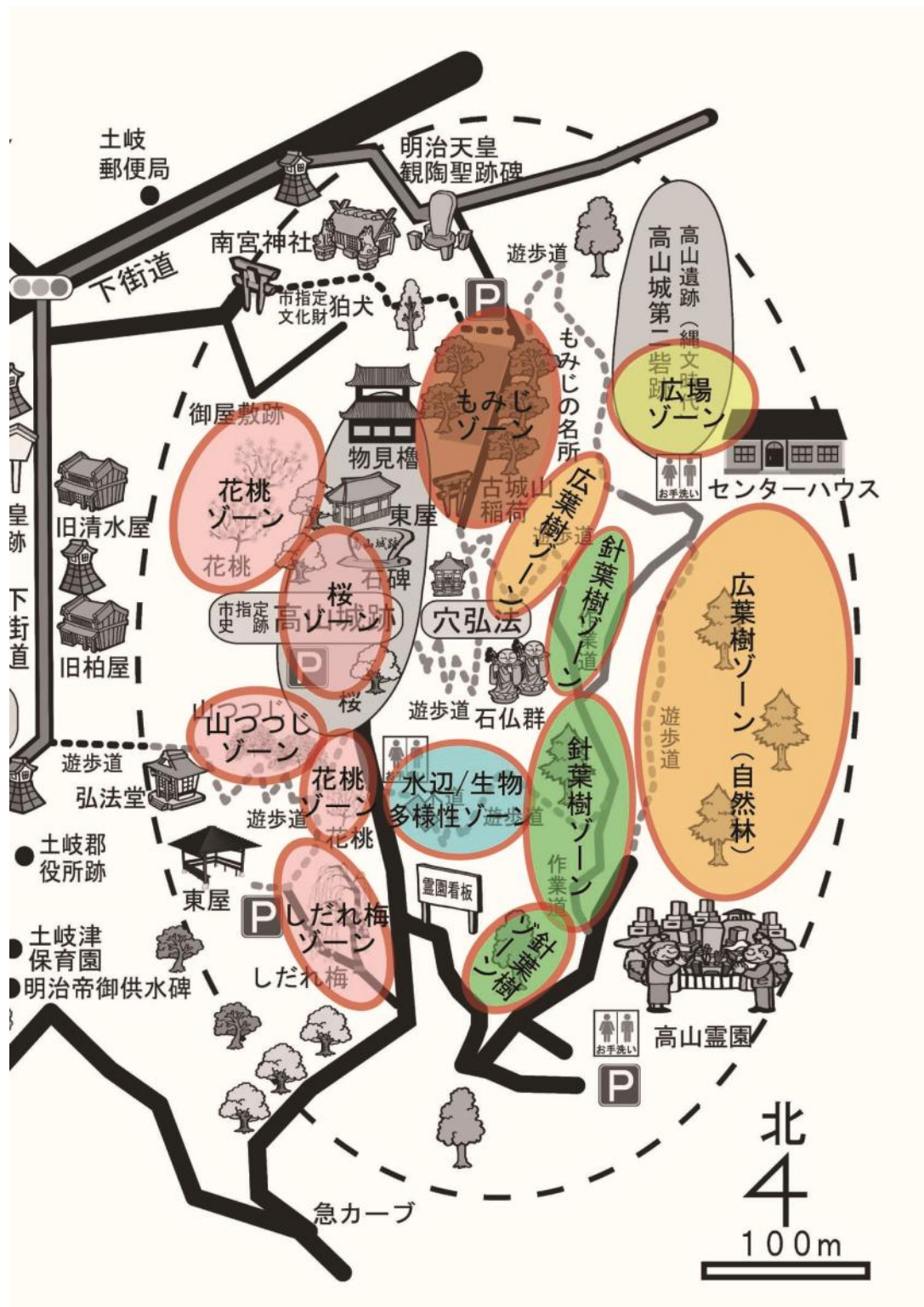
森の中で市民が憩い楽しめる空間、地域住民の絆と生き甲斐づくりの場を創り出し、自然と調和したライフスタイルを実現します。

安定した森づくりを継続するために経済的自立を目指します。

1 魅力的な森づくり（地域の魅力向上）	
森の整備	① 花木、もみじ、針葉樹、広葉樹、広場、水辺などをゾーン別に整備する ② 花木、針葉樹ゾーンは下刈りと間伐をする ③ 広葉樹の一部は自然林としてそのまま残す ④ 生物多様性の保全を図るためビオトープなどの水辺環境を整備する。 ⑤ 子どもたちの冒険心・生きる力を育むために有るがままの自然を残すエリアを設ける
遊歩道整備	① 未整備部分（約135m）に階段を設け遊歩道を完成させる ② 間伐材を利用して手すりや杖を作成する ③ 所々に木製ベンチを配置する ④ 幼児から高齢者まで歩行しやすいように改善する
植樹	① シダレ梅、花桃、もみじなどを花木ゾーンに計画的に植樹する ② アケビ、木いちごなどを自然体での繁殖を助け、生物多様性の保全に努める
施設の改修	① センターハウスへの空調設備の導入 ② センターハウス内のイスの購入

（9ページへ続く）

図7 土岐高山城跡の森 ゾーン別整備計画図



(7ページから続く)

森の広場	① センターハウス前の緩やかな傾斜地を整地し広場を作る (注意 当該地は「高山遺跡」(縄文時代)に指定されているので埋蔵文化財保護条例に従い、市/県教育委員会の許可が必要 掘削には立会が必要 形状変更は原則認められない) ② 小さな子供が遊べる安全な木製遊具の設置 (注意 フィールドアスレチックのような危険を伴う工作物は避け、保育園や幼稚園に設置されているような安全な遊具を木製で作る) 例 すべり台、ジャングルジム、ツリーハウス ③ キャンプ、バーベキューを行える場所を整備する ④ 野外ステージを設けイベントに使用する ⑤ センターハウスを利用し「森のカフェ」を開設する (パン教室、グルメ教室の開催) (女性の参画を進める) ⑥ 広場北先端部に展望台を建設する ⑦ 動物の飼育 (動物飼育小屋を設置しヤギなどの小動物を飼育する→管理方法の検討が必要) ⑧ 遊具がなくても子どもは遊びを見つけることを考慮して整備する
イベントの開催	① 花木の鑑賞を始め、森を楽しむイベントを開催する ② オリエンテーリング、ウォークラリー、サバイバルツアーなどの開催
森の管理体制	① 利用予約システムの確立 ② 施設の管理者を置く ③ ゴミ対策、マナー対策を講じる ④ 駐車場の確保、遊歩道の安全対策を講じる
補助金の活用と経済的自立	① 活動の初期段階では補助金は必要に応じて申請する ② 民間企業の社会貢献活動とのタイアップ ③ 中長期的には補助金に頼らない自立した活動を展開する努力が必要 ④ 森で栽培した農林産物を販売し活動資金化

2. 歴史的観光資源を活かした森づくり（地域の活性化）

歴史的観光資源を活かして観光交流人口を増加させることは地域を活性化することに繋がります。高山宿はかつて賑わいがあった宿場町です。森と歴史資源の活用によって来訪者を増やし、着地型観光資源としての経済効果（有料企画など）が得られるような活動を実施します。

2 歴史的観光資源を活かした森づくり（地域の活性化）	
史跡巡りツアーの企画	① 観光交流人口の増加と地域の活性化を目指して歴史ツアーを実施する ② ツアーはJR土岐市駅またはテラスゲート土岐を起点とし、下街道などの歴史資源をテーマに土岐市内外からの誘客を図る ③ 土岐市全体の魅力を向上させるために市内の歴史保存活動団体や誘客推進団体と連携する ④ 下街道サミットと連携して誘客を図る ⑤ 近隣自治体からの視察、研修を受け入れる (実績 可児市4回、坂祝町1回、春日井市1回)
戦国合戦体験	① 史跡の地形を生かしながら戦国合戦を再現する(例 旗を立てる) ② 甲冑を着用できる体験イベント、戦国コスプレイベントなどを実施 ③ 戦国武将隊のイベントを開催
史跡の整備	① 説明看板の増設、道標の整備(土岐市観光協会から助成を受けて実施済み) ② 城主平井頼母の慰霊塔の移設 (明智町吉良見に現存する慰霊塔を移設し貴重な歴史遺産の保全を図る) ③ 森の北端にかつて存在したとされる物見やぐらを再現させる ④ 高山城跡、高山宿の歴史探求を継続し、景観保全に努める ⑤ 承久の乱、戦国時代などの歴史を掘り起こし、情報の拡散に努める



土岐高山城戦国武将隊

3. 子どもたちを育む森づくり（ふるさと教育の推進）

子どもたちが将来この地に住み続けたいと思えるような心温まる地域コミュニティの形成を目指します。地域の子供は地域で育てる「地域の教育力の向上」を図ります。

3 子どもたちを育む森づくり（ふるさと教育の推進）	
学ぶ	① 子供たちの年齢に合わせた森の教室を開催する ② 自然を通して学び、生きる力を養う (バードウォッチング、樹木や草木の名称や特徴を学ぶ、昆虫の観察、カブトムシの飼育、天体観測、シイタケ菌打ち、ハチミツしぼりなどを実施する)
作る	① 各種体験教室の開催 (巣箱作りなどの木工教室、草木染、リースづくり、ストーンペインティング、ドングリのこま作り、弓矢づくり、手ろくろによる作陶などを実施する) ② センターハウスを作品の発表の場として利用する
遊ぶ	① 自然の中で思いっきり遊ぶ (葉っぱのボブスレー、遊歩道散策、キノコ探し、ドングリ拾い、葉っぱのお面づくり、キャンプなどを実施する) ② 穴弘法で夏にお化け屋敷を開催する
食べる	① バーベキュー、飯盒炊さん、芋煮会、焼き芋、山菜など
子育て支援	① 土岐津こども園などの保育園、幼稚園との連携・協働 ② 森の中で子育てをする若い親子（森のようちえんなど）への応援 ③ 子ども用のフリースペース（何をするか集まって考える場所）を作る ④ 子育て中の母親が気楽に参加できるイベントの開催
学校との協働	① 中学校に対し中学生のボランティア活動協力を要請し、計画段階から中学生の参画を図る ② 学校にとってもメリットがあるような、子どもたちを学校以外の場で育てるプログラムを学校に対して提案する ③ 保育園、幼稚園の遠足の場としての利用を進める

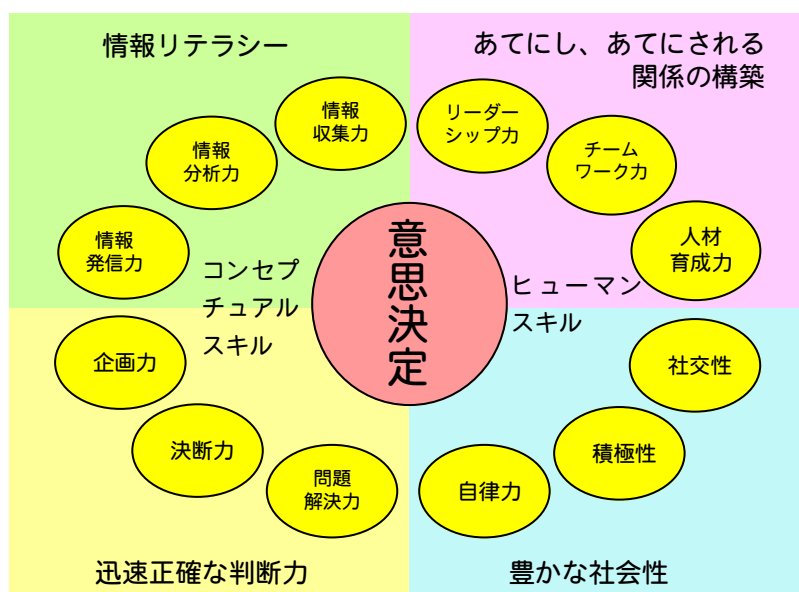


4. 持続可能な森づくり（次世代リーダーの育成）

持続可能な森の利活用のためには次世代のリーダーの育成が欠かせません。若者の参画、大学との連携、中学生・高校生の社会参加を進め、若い人たちが地域の活動に参加するきっかけを作り、次世代リーダーの育成に取り組みます。

4 持続可能な森づくり（次世代リーダーの育成）	
若者の参画促進	① 若年層（青年、大学生、高校生）を中心としたボランティア団体を結成し子どもたちとのふれあいを深める ② 中学生ボランティアを計画段階から参画を促して育成する ③ 雇用の確保、まちの活性化が不可欠
大学連携	① 岐阜大学、中部大学、中京学院大学などとの連携を進め、地域課題の解決と次世代リーダーの育成を図る ② 国土交通省の「若者の地方体験交流」事業に参加する
まちづくり後継者育成	① まちづくりコーディネーターの養成 ② 近隣自治体からの視察、研修を受け入れる（再掲） （28年度までの実績 可児市4回、坂祝町1回、春日井市1回）
情報の発信	① センターハウスやモデル林について一般市民へPRする ② 散策マップ、看板、道標の整備 ③ 各種イベントに関してHP、Facebook、各情報メディアを通して情報の発信、拡散に努める ④ 協働の内容を広く発信し、事業の透明性と拡大を図る

図8 次世代リーダーに求められるスキル

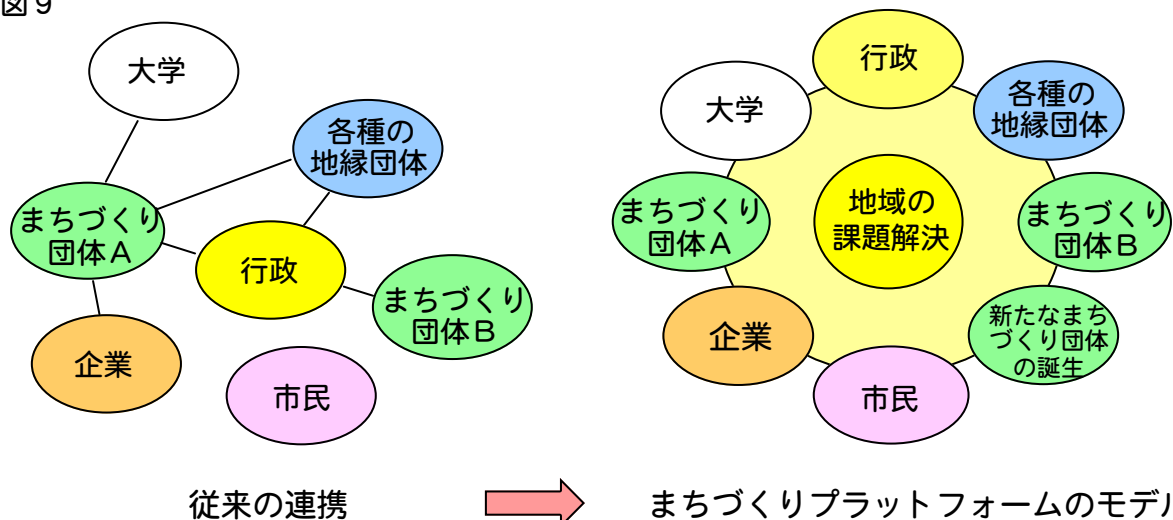


5. 協働の森づくり（みんなで自然を守ろう）

土岐高山城跡の森づくりは、まちづくり団体や市民だけで完結できるものではありません。一方多種多様な地域の課題を行政だけで解決することも難しくなっています。行政とまちづくり団体、市民などの多様な担い手が同じ方向性をもって連携し、協働して森づくりを進めていくことは、自然を守り私たちの子孫に豊かな自然の恵みを残すための重要な取り組みです。

図9は従来の連携の姿から、新しい協働の形へ進化していくイメージを表したものです。私たちは点から線へ、線から面へ連携、協働の輪を拡げていきます。

図9



(※) プラットフォームとは・・・多様な主体が協働する際に、協働を促進するコミュニケーションの基盤となるしくみのことを言います

5 協働の森づくり（みんなで自然を守ろう）	
行政との協働	① 土岐市と協働のまちづくりを推進する ② 岐阜県と協働して学びによる地域づくりを推進する ③ 岐阜県と協働して自然環境保全を推進する
大学、他団体との協働	① 岐阜大学、中部大学、中京学院大学などと連携（再掲） ② 他のモデル林との事業交流 ③ 陶史の森と連携（指導を受ける） ④ 土岐市内における自然保護団体との連携 ⑤ 土岐市内における歴史活動団体との連携 ⑥ 土岐市観光協会との連携（現在観光協会理事） ⑦ 下街道サミットとの連携（恵那、瑞浪、土岐、多治見、春日井） ⑧ 岐阜県下の文化財保護団体との連携（岐阜県文化財保護協会加入済）
学校との協働（再掲）	① 中学校に対し中学生のボランティア活動協力を要請し、計画段階から中学生の参画を図る ② 学校にとってもメリットがあるような、子どもたちを学校以外の場で育てるプログラムを学校に対して提案する ③ 保育園、幼稚園の遠足の場

第4章 土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議 の記録

土岐高山城跡の森利活用計画策定会議は下記の通り実施され、土岐高山城跡の森利活用計画が策定されました。

今後はこの利活用計画に基づいてテーマごとにワーキング・グループを立ち上げ、具体的な計画、実行を進めていきます。

第1回 土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議（第1回ワークショップ）

日 時 平成29年1月15日（日）午前10時～12時

場 所 高山区民会館（岐阜県土岐市土岐津町高山412-2）

参加者 33名

講 師 森のなりわい研究所 所長 伊藤栄一 先生

助言者 岐阜県環境生活政策課 課長補佐 堀 秀子 さん

岐阜県ぎふ森林づくりサポートセンター 瀬古裕美子 さん

岐阜県東濃農林事務所 課長補佐 今井和重 さん

土岐市まちづくり推進課 課長補佐 熊崎直美 さん

第2回 土岐高山城跡の森 利活用計画 策定会議（第2回ワークショップ）

日 時 平成29年2月12日（日）午前10時～12時

場 所 高山区民会館（岐阜県土岐市土岐津町高山412-2）

参加者 38名

講 師 森のなりわい研究所 所長 伊藤栄一 先生

助言者 岐阜県環境生活政策課 係長 大槻憲一 さん

土岐市まちづくり推進課 課長補佐 熊崎直美 さん

土岐市産業振興課 主幹・課長補佐 小池和成 さん

土岐市産業振興課 主幹・課長補佐 林 寛 さん

土岐市産業振興課 観光係長 林 希由 さん

土岐市教育委員会 課長補佐 小木曾寛美 さん



高山区民会館

1. 第1回 土岐高山城跡の森 利活用計画策定会議 平成29年1月15日

(1) 講演 森のなりわい研究所 伊藤栄一 先生

土岐市土岐津町の高山区民会館において、事務局の基調報告の後、伊藤栄一先生に「里山林のあるべき姿と利活用について」をテーマに講演を行っていただきました。

(講演要旨) 「過去における里山は生活に密着しており、薪を採取し自然の恵みを享受していた。しかし生活様式が変わり里山へ人が行くことがなくなった今日では、里山の利活用の自由度が高まっている。この森はJRの駅や市街地に隣接しており、自然と調和したライフスタイルを実現するために自由なアイデアを出していただきたい」

【森のなりわい研究所とは・・・】

森のなりわい研究所は、森を活かし、森に育まれる「暮らし・地域づくり」を目標にして、調査・研究、森林環境学習、森に親しむための機会づくり、森の空間利用・資源利用を通じた地域づくり、緑の景観デザイン、森づくり活動支援事業、ワークショップ運営支援事業等を実施されています。



(2) 第1回ワークショップ (KJ法)

参加者のほとんどはKJ法によるワークショップの経験がありませんでしたが、日頃から一緒に活動している仲間だけに、次第に打ち解け和気あいあいの中作業が進みました。特に学生を含む20代の若者5名が意欲的に取り組んでくれたことは今後の展開に向けて明るい兆しとなりました。



ワークショップの様子（KJ法）

ワークショップでは5つのグループに分かれ、助言者の皆さんにも加わっていただいて

- ①森の整備の方法と内容
- ②子どもたちへの働きかけ
- ③歴史資源を活かした森づくり
- ④夢

の各項目について活発な話し合いを行い、提案をまとめました。



A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ

各グループの発表



A グループ



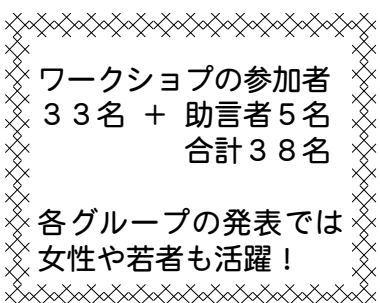
B グループ



C グループ



D グループ



E グループ

(3) 第1回ワークショップで提案された内容

ワークショップで提案されたすべてのご意見を分類して項目ごとにまとめました。() 内の数字は同じ提案が複数あった場合の数を表しています。

① 高山城跡の森 森の整備

森の整備

森を花木、針葉樹、広葉樹、広場、水辺のようなゾーン別に整備する
森の進化をゾーン別に作る 伐採ヒノキ林整備 松竹林の造林 栗林伐採から梅林 コナラの間伐 ビオトープや沢筋の整備 小川や沢を作れたら しいたけ原木薪 椎茸菌打ちの原木作り ドローンの練習場所

遊歩道の整備

未完成遊歩道の整備 森の遊歩道整備 階段に手すり ウォーキングコース作り 城跡の森から高山公園へ遊歩道の拡大 森歩き 昔と比べると山へ行く道が少ない(本町から宮前から) ヒノキ材の利用 杖 くい手すり マウンテンバイクコース作り センターハウスに案内ボードの設置

植物の植樹

あけびや木いちごなどすぐ食べられる植物を植える しだれ梅 果樹の栽培 お花見 地域の皆さんが集まりやすい場所で花見ができるようにする(桜だけではなく) 田んぼを増やす きのこと(しいたけ、しめじ) 自然薯の栽培 野菜作りをしたい

動物の飼育

動物観察の小屋を作る 子供を集めるためヤギを飼う インコの飛び回る広場 池にイモリを飼う

森の広場

センターハウスや森の利用者を増やすため遊具を設置 木立の中で子どもが楽しく遊べる場所 釣り堀 管理釣り場 ツリーハウス(2) 外で遊べる場をつくる 森の中に川などを増やす 幼児から大人までの遊具 遊園地 自然を利用した幼児向け遊具を設置 フィールドアスレチック(2) 空中ロープ滑車 すべり台 ジャングルジム 高山城跡の森を高山自然公園にする ドッグラン広場 新しい子供の遊び場の設置 ミニトレイン基地 公園 展望タワー フォレストアドベンチャーのような森の遊園地(有料) 小型ゴミ箱の設置

野外ステージ

コンサートホール イベント会場 ステージを作り定期イベント実施 武将隊ステージの設営 高山城跡のウェディング会場設営

キャンプ場

キャンプができるようにする(2) バーベキュー施設の整備(3)

森のカフェ

森のカフェ 森のピザ工房 薪窯で焼くピザ 森のパン教室 森のグルメ教室 女性の参加者を増やす



② 歴史的観光資源を活かした森づくり

史跡を巡るツアーの企画

学生をガイドにして史跡を巡るツアーを行う（外部の人から 地元の価値を聞く） 高山城跡歴史ツアーを旅行会社と提携して実施 城跡をカメラで写すと歴史の解説や城の再現が出るアプリを作る 子供たちに歴史を教える 高山の歴史を知ろう 子供達向けのテーマ 駅を中心とした市内の史跡に関連したコース作り 肥田町、泉町、土岐口と交流を持つ

戦国合戦体験

史跡の地形を使いながら合戦の再現をする 合戦体験 夜戦イベント実施 戦国武将集客イベント 森の大合戦 戦国合戦まつりを森で開催 衣装を

着て体験できるイベントを企画する イベントを増やす

史跡の整備

高山城跡の整備 頼母の墓を移設 頼母の家紋を展示する 骨董品の展示 歴史に関するもの 鎧兜の制作 高山城の歴史探求 高山宿地域の街並みづくり 高山城址360度見渡せる天守閣 説明看板の増設

散策マップ

下街道を活かしたマップを利用 時代を追ってマップ写真 散策マップの発行



③ 子どもたちを育む森づくり

子供たちへの環境教育

将来の後継者養成

子供に森のガイド認定証を交付して親しむ機会とする 小学生、園児の遠足コースができるように 森の教室を小中学生高校生それぞれのレベルで開催 小中学校の体験学習の場として使ってもらう 若年層中心のボランティア団体の結成 子供会やエリア別での町内活動との協力締結

作る

木材を利用した作品作り（6） 野鳥の巣箱を作る（4） リースづくり（3） 寄せ植え おもちゃ 高山宿の看板 子供に草木染めを知ってもらう（2） 糸ができたら編み物をする

学ぶ

バードウォッチング（3） 野鳥の食べるひまわりの種を子どもたちでまく 森の木のネームプレートをかける（3） 子供向け昆虫観察会（2） 蛍 親子天体観測（3） 親子椎茸菌打ち体験（2） 昔の暮らし体験 味噌醤油教室 養蜂体験 ワークショップ 山の粘土を掘り出し器を作る センターホールで焼き物を生かした活用

遊ぶ

葉っぱのボブスレー ターザンごっこ 畑を作ろう キャンプ 森林で遊ぶ 子供たちのキャンプ場 草刈 飯盒炊飯 火を起こすなどの教室 外遊びビー玉遊びなどできるスペースを作る 大人と子供が一緒になってキノコを採ったり、遊びの中で植物採集をする センターハウスで子供達とツタどんぐりでツリーを作る 昔の遊びを広げる 基地作り 森のめぐみでの生活体験 泊まりでの体験 森でとれた食材でのバーベキュー パーティークッキング教室

食べる

芋煮会開催 焼き芋 森の中でカレーなどを作ったりして楽しさを共有 自然の中で食べ物を作る 山菜の学習 地区に限定した食生活

子育て支援

森のママ友会が親子で楽しめるスペースを作る 森のようちえん活動への応援



④ イベントの開催

常にイベントを開催して年間を通して集客 春夏秋冬一年を通してイベントの企画
高山城跡でしだれ梅、桜、花桃、山つつじを見ながら・・・
他のモデル林とのコラボ事業交流
親子三世代で参加が可能なウォークラリーの企画
オリエンテーリング（２）
林業体験イベントの開催（市外からの参加歓迎）

しだれ梅の鑑賞会3月中旬
親子椎茸菌打ち体験 3月下旬
花桃の鑑賞会 4月下旬
梅の収穫ジャム作り6月下旬
カブトムシ親子観察会7月初旬
親子栗拾い大会9月中旬
はちみつ採取とハンドクリームの作成9月中旬
イモ 自然薯サツマイモ掘り大会とイモパーティ10月中旬
ライトアップ紅葉祭り11月中旬 芋煮会をする

⑤ 駐車場の整備

アクセスを考えて行きやすいように
駐車場を整備 駐車場の整備

土岐津町外 市外からの人向けの駐車スペースの整備

⑥ 補助金の活用と経済的自立

補助金への応募 県・市・企業
初期段階では補助金は必要

補助金に頼るのではなく自立する努力が必要
ニホンミツバチの飼育蜂の観察蜂蜜の採取と ハンドクリームの作成
葡萄畑 植樹体験 ブルーベリー収穫体験 ジャム作り 須恵器作り 豊富なクヌギの活用椎茸栽培原木の販売 長良川の天然落ち鮎を武将祭り紅葉祭りで塩焼き を販売 財源
採取したコナラでコースターを作る
焼き印をする 山菜 梅干し 松茸 ヘボ取り 川魚燻製 サツマイ

モの栽培 炭焼き 農産物の 栽培
→ 販売 しいたけ栗自然薯 ミツバチ
さつまいもブルーベリー 武将祭りも
みじまつり農業まつりで格安で販売
朝市椎茸の原木を売る ジビエ料理
椎茸作りキット販売
善意の募金箱を設置する



⑦ 情報発信

情報の発信広く世間にPR
ホームページの充実 イベント開催
案内の配布 高山区、土岐口、土岐
津公民館、土岐市 JR、マスコミ関

係 twitter sns line 新聞テレビ
地元マスメディアへの資料投げ込み さわやかウォーキングで情報
発信

(4) 参加人数・参加団体

男性	30名 (内20代 5名)	高山城高山宿史跡保存会	高山城戦国武将隊
女性	3名	土岐里山の会	高山区自治会
合計	33名	土岐津町青少年育成会	土岐市観光ガイドの会
		学生	

(5) 講師・助言者の皆さん



岐阜県東濃農林事務所
課長補佐 今井和重 さん



森のなりわい研究所
所長 伊藤栄一 先生

岐阜大学地域協学センター
地域コーディネーター



岐阜県環境生活政策課
課長補佐 堀 秀子 さん



土岐市まちづくり推進課
課長補佐 熊崎直美 さん



岐阜県森林づくりサポート
センター 瀬古裕美子 さん

2. 第2回 土岐高山城跡の森 利活用計画策定会議 平成29年2月12日

(1) 土岐高山城跡の森 利活用計画 (基本構想) の提案



事務局から利活用計画案を報告

土岐市土岐津町高山の高山区民会館において、第一回ワークショップの際に提案された数多くの意見を整理分類した結果を踏まえた「土岐高山城跡の森 利活用計画 (基本構想)」を事務局が報告しました。



講師 伊藤栄一 先生



助言者の岐阜県、土岐市職員の皆さん



利活用計画基本構想案の説明を聞く参加者の皆さん

(2) 第2回ワークショップ (KJ法)

基本構想の報告を受けた後、参加者は6つのグループに分かれ、さらに盛り込むべき内容や修正すべき内容について第2回目のワークショップを行いました。ワークショップの様子と取りまとめられた利活用計画は高山城高山宿史跡保存会ホームページ <http://www.tokitakayama.com> で公開します。

ワークショップの様子

The 2nd WORKSHOP for Forest of Tokitakayamajoushi



グループ討議の発表



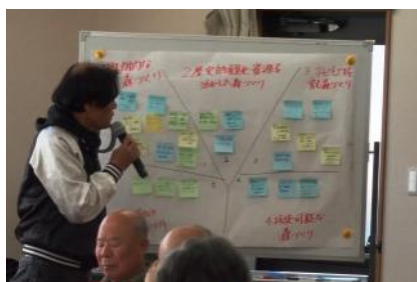
A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ



F グループ

(3) 第2回ワークショップで提案された内容

① 魅力的な森づくりに関して

(Aグループ) 他地区の先進団体から学ぶ まず
は区民全員に現地を見て知っていただきたい センターハウスの周知PR 溜池、沢の整備(生物の復活カニ、イモリ) イベントの開催親子向け
高齢化社会のため 運動コースを通してPRする
若い夫婦と子供を呼び込むイベント 釜戸、肥田
陶史の森、可児我田の森を参考とする センター
ハウス、モデル林などを一般市民へPRをする

(Bグループ) ゾーン分けは今の自然を活かして
行う 施設の管理者が必要(現在出入りが自由に
できない) 高齢者目線でのトイレ整備 観光と
地域利用の棲み分け 予約利用システムの整備
(予約の人と ふらっと来た人の心地よい空間を確
保) センターハウスの 年間スケジュールを公表

(Cグループ) 高山城跡の森と陶史の森を繋いだ
散策コース を整備する 花の森作りを優先事業と
する 穴弘法からセンターハウス高山城跡をモノ
レールでつなぐ

(Dグループ) 寺、神社、産業、歴史のテーマめ
ぐり センターハウス前に梅を鑑賞できる道をつ

くる 森の広場キャンプバーベキュー設備管理者
は? 整備してあるところの植樹を早くする センターハウスへ行く近道を作る センターハウスの
利用を気軽にするための方法を模索する 市民の親
睦の場としてセンターハウスを活用する 柿栗など
の実のなる木の植樹 森のカフェ 管理者をどうす
るか(ボランティア委託?)

(Eグループ) 井戸を掘る 来訪者が増えるとゴミ
の問題が起きる(いくつかゴミ箱を作る、ゴミ
置き場を作るか、全て持って帰ってもらうか) 木
の上のバンカーなど宿泊設備 洞穴を作り子供基地
を作る 実際の城作り 釣り堀 芝居小屋設置 センターハウスの改修で空調を整えて欲しい ラジコ
ン広場の設備 森に合う自販機を設置する 畑作り
駐車場の整備 自然の邪魔にならないよう案内板を
たくさん作る

(Fグループ) 水道整備 ウォーキングコース確立
最低限の安全対策整備 遊歩道整備 昔ながらの
キャンプ(お客さんが自分でテントをはる) 天体
観測



静岡県 伊豆 松崎町



高山城高山宿史跡保存会 公式キャラクター

② 歴史的観光資源を活かした森づくりに関して

(Aグループ) 年に一度くらい 各町内会に参加要
請してイベントを計画し 楽しみとなるようにでき
ないか

(Bグループ) 説明 PR のできるパンフレット
看板の設置 子供向けのツアー 子供たちに町を
紹介してもらう記事の子供の目で作ってもらう

(Cグループ) 森の活用に繋げるために高山宿の
魅力づくりを並行して進めてほしい(明治天皇遺
跡、遠山医院、深萱むね、陶器学校) 承久の乱

を含めた歴史の掘り起こし(大河ドラマ) セン
ターハウスにふるさと学習のパネル展示映像を流す

(Dグループ) わかりやすい散策マップを早く作る
看板道標が分かりにくい(誰でもわかるように)
近隣自治体との交流

③ 子どもたちを育む森づくりに関して

(Aグループ) 巣箱作り 樹種の掲示 バードウォッチング 鳥の種類と写真を利用 学びの森として 生き物の写真を掲示 高齢者でも活動できる作業

(Bグループ) 子ども達に郷土に誇りを持たせたい 小中学校と連携した郷土教育 遊具はなくても子ども達は見つけてくる 常駐している人が欲しい アルコール禁止ゴミの持ち帰りなどのマナー面でのルール整備

(Cグループ) すごろく、かるた、クイズゲームの作成 キャンプ場は大変良いと思う(テント生活) 農業体験(野菜果樹花) 親子と一緒にといった事業の実施

(Dグループ) 竹を切り弓を作った的当て(その過程を楽しむ) 親と子、家庭で作った弁当を山で食べる 森の教室の企画を進める 遠足散歩誰でもが気

楽に行くことができる場づくり 母親が気楽に集まれる行事 地域の方が先生をして体験教室を開催することが大切

(Eグループ) 子ども達と体験教室木工教室で トールペインティング(間伐材で作る) 子どもフリースペースを作る(何をするかを子どもたちが考えるスペース) 子供たちと基地づくり 歴史ツアー、ウォークラリーを開催し芋煮会などを行い子どもたちと楽しむ

(Fグループ) 学校をどのように取り込むか 中学生のボランティア活動協力要請 子どもたちを学校以外の場で育てる 学校に向けて提案 学校にとってもメリットになるようなプログラムの提供 マッチングをこちらが担う 保育園幼稚園の遠足の間

④ 持続可能な森づくりに関して

(Aグループ) 資金作り 薪、椎茸原木の販売による資金調達 里山林の地下資源を利用し活動資金とする

(Bグループ) 雇用の確保 地域の活性化が不可欠 魅力ある企画 大学への 声かけ協働

(Cグループ) 10年後も 維持できるための人材確育成 資金は?

(Dグループ) 若者へ高山の 良さを伝えるための方法は? 子育て中の若い夫婦の行事参加 利活用計画のアピールをしてもっと多くの人の意見を聞くべき

(Fグループ) 子どもたち向け講座の講師の人材育成 計画を作る段階から子ども達を参加させる 子どもたちに利活用計画策定に参加してもらいた 子どもに聞く ありのままの自然が良い

⑤ 協働の森づくり(まちづくり) に関して

(Cグループ) 他団体と連携した情報発信

子どもとふれあい老人ホームと 保育園で子供の人づくりをする

(Dグループ) 刑務所を作ることができないか? 産業ロケットの部品の組立工場ができないか?

⑥ イベント、その他 に関して

(Eグループ) 下街道戦国時代復元イベント イベントを通じて整備作業するゴミ拾いなど 歴史的資源の活用 陶芸家としての技を生かして手ろくろ体験などを組み入れたセンターハウスの活用方法 穴弘法夏のイベントお化け屋敷 サバイバルツアー自衛隊とコラボ 3Dマッピングイベント スマホで再現したタイムトラベル ようこそ戦国時代へツアー コスプレイベント戦国編 森の整備教室(きこりと

の連携) 色の移り変わり時代によるメニューを作り食べ比べ 甲冑製作

その他

若者が住みたくなる魅力あるまちづくりのためには中央線の快速を瑞浪止めにする 土岐市瑞浪市のボランティア団体で JRの快速を止めるための協議会を設立し行政と知恵を絞る

(4) 参加人数・参加団体

男性	33名 (内20代 4名)
女性	5名
合計	38名

高山城高山宿史跡保存会	土岐高山城戦国武将隊
土岐里山の会	高山区自治会
土岐津町青少年育成会	土岐市観光ガイドの会
じゃんぐる☆ぽっけ	市民（個人）
大学生	

(5) 講師・助言者の皆さん



講師 森のなりわい研究所
所長 伊藤栄一 先生



岐阜県環境生活政策課
係長 大槻憲一 さん



土岐市まちづくり推進課
課長補佐 熊崎直美 さん



土岐市産業振興課 主幹・
課長補佐 小池和成 さん



土岐市産業振興課 主幹・
課長補佐 林 寛 さん



土岐市産業振興課
観光係長 林 希由 さん



土岐市教育委員会 生涯学習課
課長補佐 小木曾寛美 さん

資 料 補助金制度について

活動の初期には経済的支援が必要な場合があります。下記の補助制度は申請しても採択される保証はありません。しかし、活動のコンセプトを明確にし、私たちの熱意と計画性があれば支援を受けられる場合もあると思われます。

何のために何が必要なのかを明らかにして、岐阜県、土岐市とよく相談の上対応して行く必要があります。

補助金リスト		(補助率)	(金額)	(申請時期)
土岐市				
まちづくり支援事業費補助金	ソフト事業	5 / 10	上限 25万円	(5月)
	ハード事業	8 / 10	上限 400万円	(5月)
土岐市観光協会				
観光振興事業費補助金		10 / 10	上限 30万円	(1月)
岐阜県				
清流の国ぎふ地域活動支援事業		10 / 10	上限 50万円	(9月)
清流の国ぎふ市町村提案事業（整備、木育、施設）		10 / 10	上限 500万円	(9月)
地域活性化ファンド（飛騨美濃じまん育成支援事業）		8 / 10	上限 500万円	(年3回)
地域活性化センター				
地域イベント助成事業	市から実施主体へ助成	10 / 10	上限 100万円	(10月)
自治総合センター				
コミュニティ助成事業	一般コミュニティ助成事業	10 / 10	上限 250万円	(8月)
	青少年健全育成助成事業	10 / 10	上限 100万円	(8月)
	活力ある地域づくり助成事業	10 / 10	上限 200万円	(8月)
				(土岐市から実行委員会等へ助成)
国立青少年教育振興機構				
子どもゆめ基金助成	子どもの体験活動	50万円以下		(4月、10月)
		(キャンプ、自然観察など)		

「土岐高山城跡の森利活用計画策定会議」は岐阜県環境生活部環境生活政策課の「地域の課題
解決応援事業による支援」と岐阜県、土岐市の職員の皆様のご支援を受けて実施しました。

土岐高山城跡の森 利活用計画

発 行 土岐津町まちづくり協議会
高山城高山宿史跡保存会 土岐里山の会
高山区自治会 土岐津町青少年育成会
発行日 平成 2 9 年 3 月
問合先 〒509-5121
岐阜県土岐市土岐津町高山 3 7 5
土岐津町まちづくり協議会 事務局 後藤 清
電話 0 5 7 2 - 5 5 - 0 1 1 2
メール k.goto@asahi.email.ne.jp
HP <http://www.tokitakayama.com>
(高山城高山宿史跡保存会)